

2019年3月期 決算説明会

2019年5月14日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社
代表取締役社長 穂川 稔



➤ 2019年3月期 連結決算の概況

- ・主力製品、後発医薬品の取り組み

➤ 2020年3月期 連結業績予想

➤ 研究開発パイプラインの状況

➤ 長期ビジョン「HOPE100」実現に向けた取り組み

- ・中期経営計画「HOPE100－ステージ2－」（2016～2019年度）の進捗

2019年3月期 連結決算の概況

2019年3月期 連結決算の概観

(単位：億円)

	18年3月期	19年3月期	対前年		対修正予想 (19年2月5日発表)	対当初予想 (18年5月11日発表)
			増減額	増減率 (%)	増減額	増減額
売上高	1,106	1,136	+30	+2.7	+30	-8
営業利益	88	90	+2	+1.7	+8	+4
経常利益	93	94	+1	+1.0	+8	+2
親会社株主に帰属 する当期純利益	66	69	+3	+4.5	+8	+3

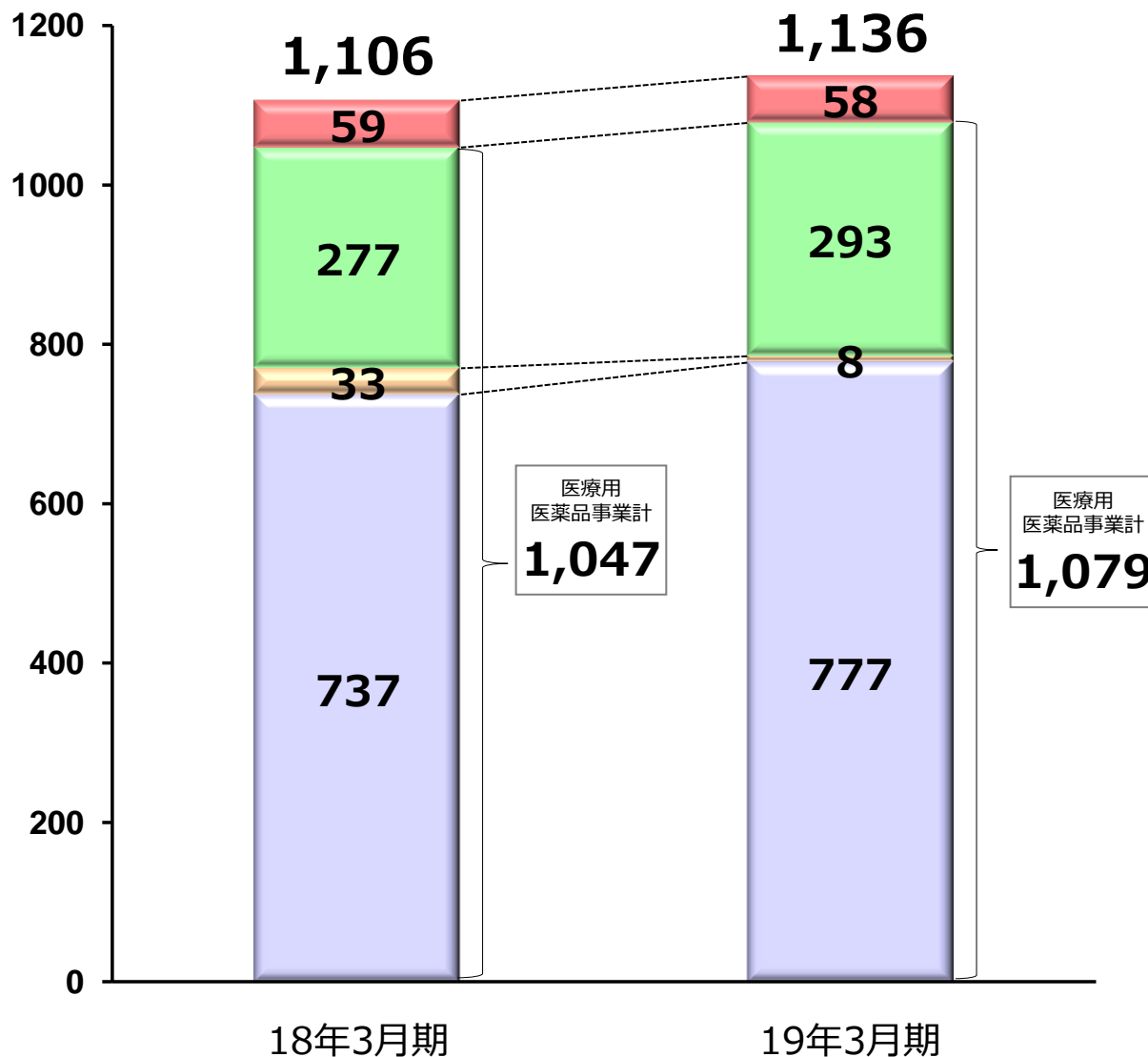
2019年3月期 業績の概要

(単位：億円)

	18年3月期	19年3月期	対前年		対修正予想 (19年2月5日発表)	対当初予想 (18年5月11日発表)	
			増減額	増減率(%)	増減額	増減額	
売上高	1,106	1,136	+30	+2.7	+30	-8	
医療用医薬品事業	1,047	1,079	+32	+3.0	+33	-5	
	770	785	+15	+1.9	+14	-24	
	新医薬品 国内	737	777	+40	+5.4	+16	-22
	新医薬品 海外	33	8	-25	-75.1	-2	-2
	後発医薬品	277	293	+16	+6.0	+19	+19
ヘルスケア事業	59	58	-1	-3.0	-2	-2	
売上原価	491	562	+71	+14.6	-	-	
販売費及び一般管理費 (内、R&D費)	528 (142)	484 (108)	-44	-8.2	-	-	
営業利益	88	90	+2	+1.7	+8	+4	
経常利益	93	94	+1	+1.0	+8	+2	
親会社株主に帰属する当期純利益	66	69	+3	+4.5	+8	+3	

2019年3月期 業績のポイント① 対前年：売上高

売上高（単位：億円）



【売上高計+30億円】

医療用医薬品事業計 + 32億円

国内新医薬品 + 40億円

フルティフォームの売上が伸長
 ベオーバの上市、ナゾネックスの販売移管による
 売上が寄与
 ※薬価改定の影響（7%台）

海外新医薬品 - 25億円

導出品の開発進展に伴う一時金収入の減少

後発医薬品 + 16億円

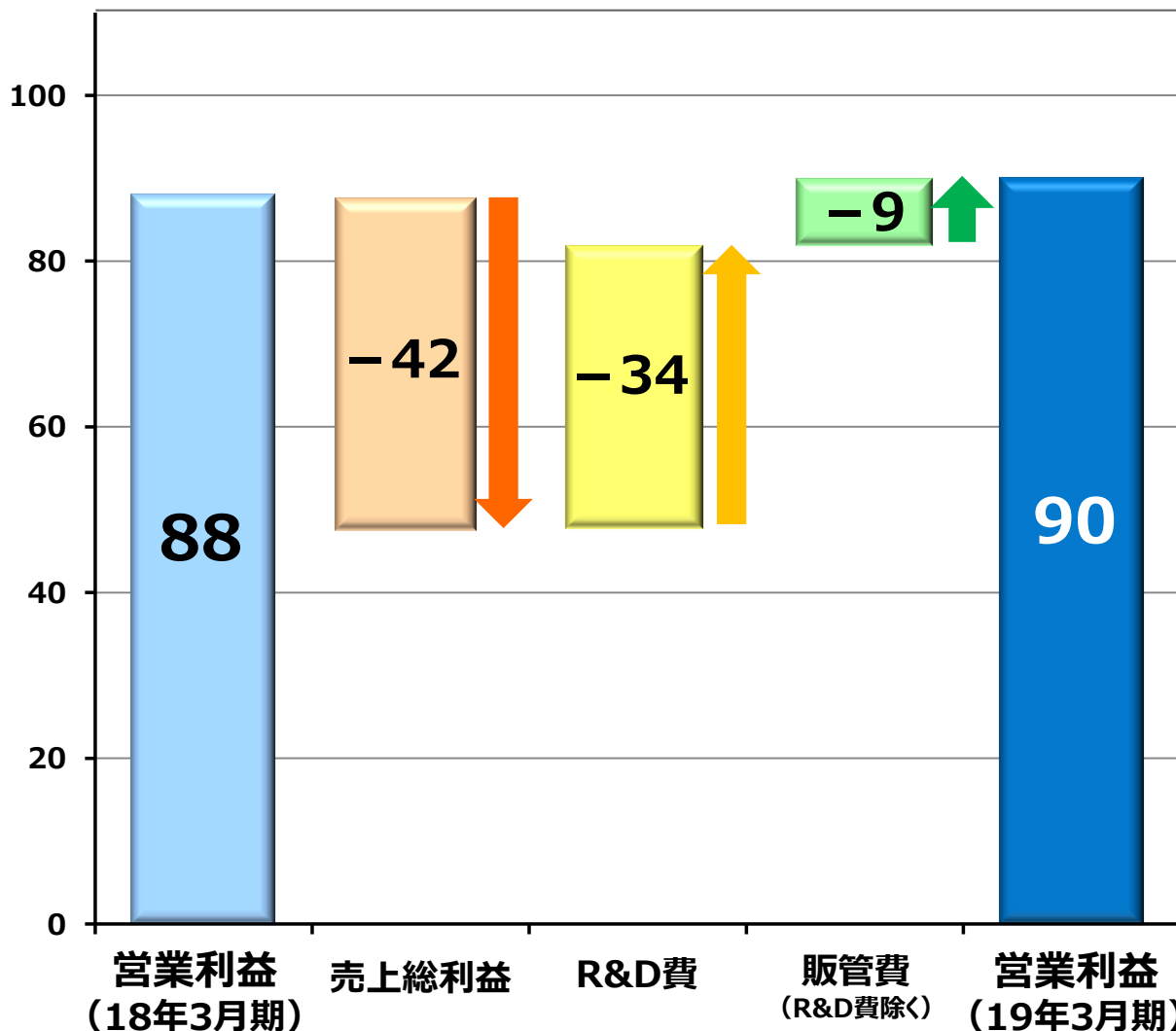
18年度追補品の売上等が増加

ヘルスケア事業 - 1億円

ルビスタの売上は増加
 ミルトン、その他製品の売上が減少

2019年3月期 業績のポイント② 対前年：営業利益

(単位：億円)



【営業利益 + 2億円】

売上総利益の減少

売上高：前年比30億円増
 売上原価率：5.1ポイント上昇

- ・薬価改定の影響 (7%台)
- ・後発医薬品の売上増加
- ・導出品の開発進展に伴う一時金収入の減少

R&D費の減少

R&D費の減少
 142億円 (18/3期) ⇒ 108億円 (19/3期)

- ・開発プロジェクトの進展 (18/3期) による減少
- ・導入品契約一時金の減少

販管費 (R&D費を除く) の減少

・主に人件費、販売費の減少
 385億円 (18/3期) ⇒ 376億円 (19/3期)

2019年3月期 業績のポイント③ 対予想

(単位：億円)

	18年3月期	19年3月期	対前年		対修正予想 (19年2月5日発表)	対当初予想 (18年5月11日発表)	
			増減額	増減率(%)	増減額	増減額	
売上高	1,106	1,136	+30	+2.7	+30	-8	
医療用医薬品事業	1,047	1,079	+32	+3.0	+33	-5	
	770	785	+15	+1.9	+14	-24	
	新医薬品 国内	737	777	+40	+5.4	+16	-22
	新医薬品 海外	33	8	-25	-75.1	-2	-2
	後発医薬品	277	293	+16	+6.0	+19	+19
ヘルスケア事業	59	58	-1	-3.0	-2	-2	
売上原価	491	562	+71	+14.6	-	-	
販売費及び一般管理費 (内、R&D費)	528 (142)	484 (108)	-44	-8.2	-	-	
営業利益	88	90	+2	+1.7	+8	+4	
経常利益	93	94	+1	+1.0	+8	+2	
親会社株主に帰属する当期純利益	66	69	+3	+4.5	+8	+3	

【予想との差異(対 19年2月5日発表)】

売上高：(国内新医薬品)フルティフォームの好調な推移、ナゾネックスの上振れ (後発医薬品)モンテルカストAGの上振れ
 営業利益：増収による上振れ

2019年3月期 主力製品の売上状況

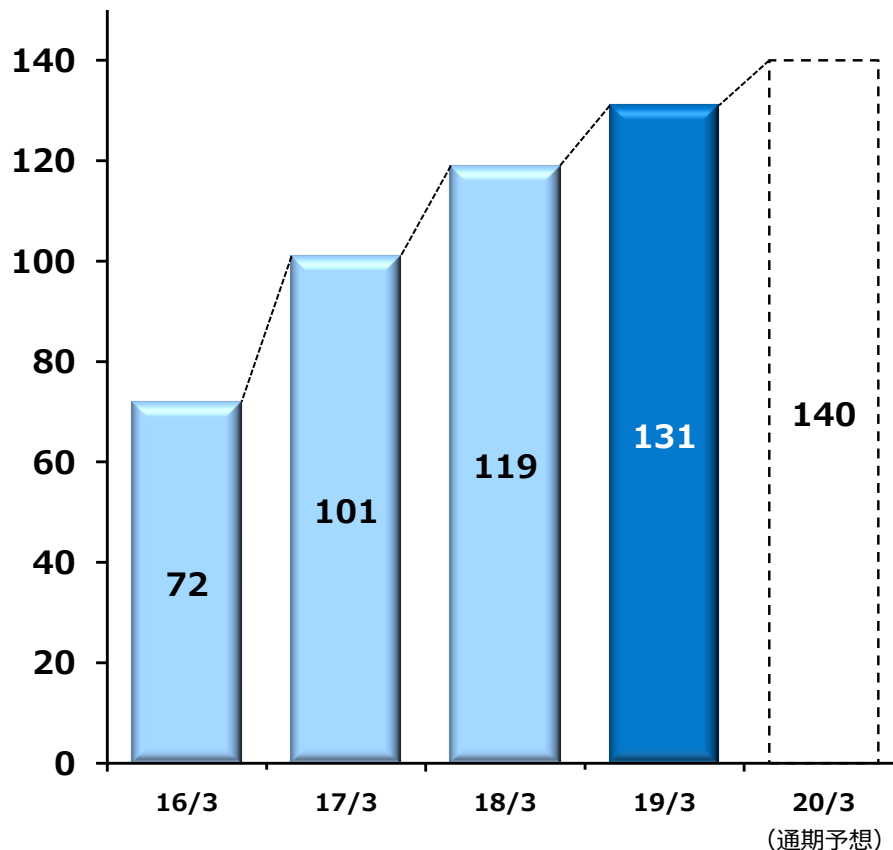
(単位：億円)

	18年3月期	19年3月期	対前年		対修正予想 (19年2月5日発表)	対当初予想 (18年5月11日発表)
			増減額	増減率 (%)	増減額	増減額
フルティフォーム (喘息治療配合剤)	119	131	+12	+9.8	+8	+8
デザレックス (アレルギー性疾患治療剤)	49	37	-12	-24.1	-11	-44
キプレス (成人製剤) (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	83	62	-21	-24.6	+2	+2
キプレス (小児製剤) (気管支喘息治療剤)	105	76	-29	-27.4	+4	+4
ナゾネックス点鼻液 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	—	128	+128	—	+27	+27
ウリトス (過活動膀胱治療剤)	72	66	-6	-8.6	-2	-2
ベオーバ (過活動膀胱治療剤)	—	7	+7	—	-1	-1
ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	153	135	-18	-11.4	-2	-10
ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	87	68	-19	-22.1	-4	-4
モンテルカスト錠「KM」 (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	117	119	+2	+1.3	+21	+21

主力製品、後発医薬品の取り組み

フルティフォーム（喘息治療配合剤）

売上高（単位：億円）



■19年3月期の状況

◆ICS/LABA配合剤：4.6%拡大

1,151億円（18年3月MAT）⇒1,203億円（19年3月MAT）※1

◆フルティフォームの売上シェア

11.4%（18年3月MAT）⇒12.2%（19年3月MAT）※2

■20年3月期の取り組み

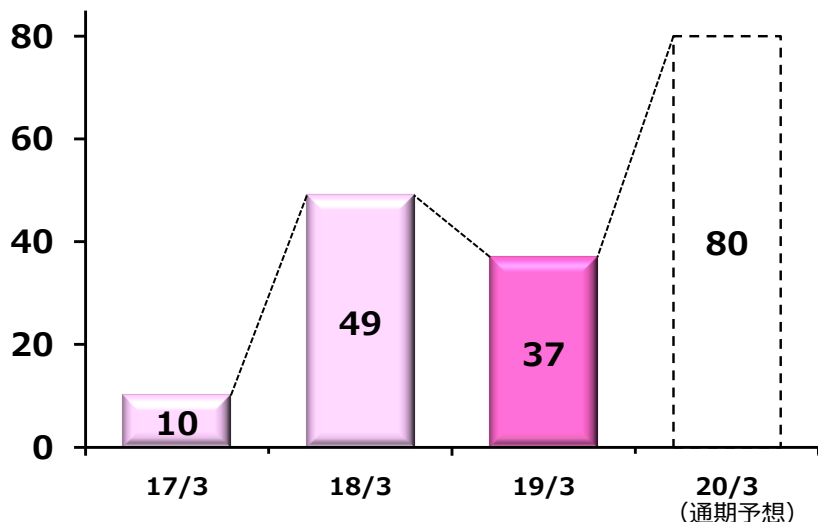
◆喘息治療のファーストライン薬としてのポジショニング確立を目指す

- ・「咳」症状を有する患者さんへの高い臨床効果を訴求
- ・中枢から末梢まで、肺全体への良好な薬剤分布
- ・エアゾール製剤のメリットを訴求
 - －吸気力の弱い方でも楽に吸入できる

注1,2 Copyright © 2019 IQVIA. JPM 2018年3月MAT、2019年3月MATを基に作成 無断転載禁止

デザレックス (アレルギー性疾患治療剤)

売上高 (単位: 億円)



■19年3月期の状況

- ◆抗ヒスタミン剤市場 : 9.1%縮小
1,782億円(18年3月MAT) ⇒ 1,621億円(19年3月MAT)^{注1}
- ◆デザレックスの売上シェア
1.5% (17年12月MAT) ⇒ 5.3%(18年12月MAT)^{注2}
- ◆19年3月期第3四半期実績 48億円
※19年1月からの自主回収により、供給一時停止
供給再開は確定次第、速やかにお知らせします

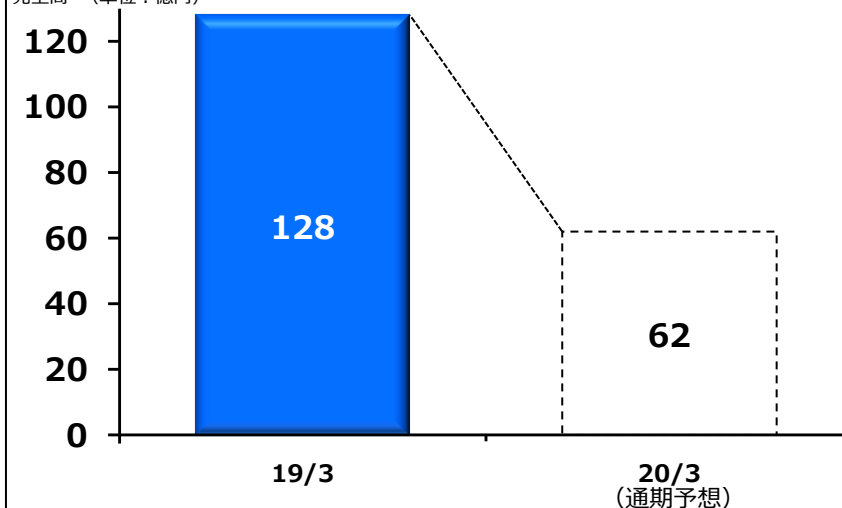
■20年3月期の取り組み

- ◆「効果の高さ」「眠気の少なさ」「使いやすさ」を訴求
・処方例数および採用軒数 (GP層) の拡大
- ◆耳鼻科における処方獲得率No.1の実現

注1 Copyright © 2019 IQVIA. JPM 2018年3月MAT、2019年3月MATを基に作成 無断転載禁止
 注2 Copyright © 2019 IQVIA. JPM 2017年12月MAT、2018年12月MATを基に作成 無断転載禁止

ナゾネックス点鼻液 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)

売上高 (単位: 億円)



■国内独占販売権を取得 (2018年5月)

【販売開始】2018年8月

【売上】101億円 (予想) ⇒128億円 (実績)

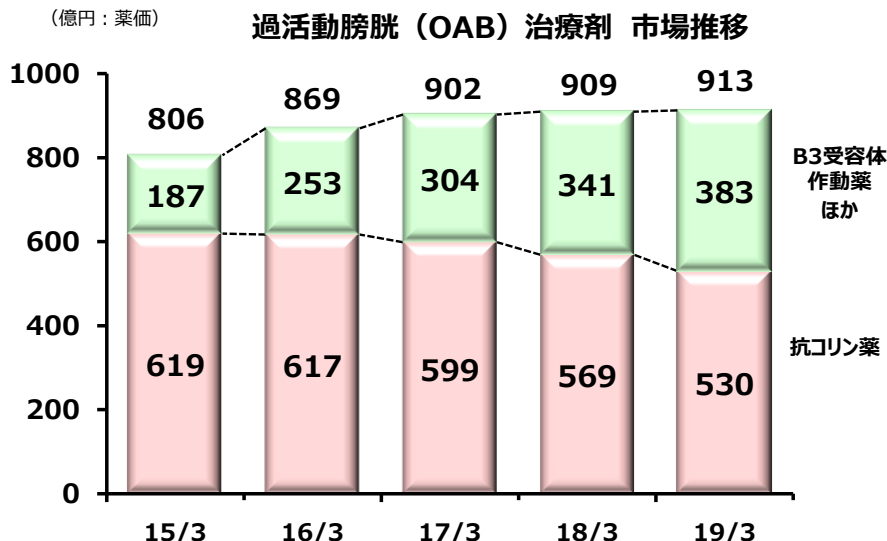
◆鼻噴霧用ステロイド剤市場 : 460億円 (19年3月MAT)^注

主な製品 : ナゾネックス、アラミスト、エリザス、フルナーゼ等

■20年3月期の取り組み

- ◆オーソライズド・ジェネリック (AG) による展開を推進する
- ◆両剤で耳鼻科におけるシェアを拡大

注 : Copyright © 2019 IQVIA. JPM 2019年3月MATを基に作成 無断転載禁止



出典：Copyright © 2019 IQVIA. JPMを基に作成 2015/3-2019/3を基に作成 無断転載禁止

■ 過活動膀胱治療剤市場は拡大中

806億円 (15年3月MAT) ⇒ 913億円 (19年3月MAT) 注1
 ・β3受容体作動薬市場が拡大

◆ ウリトスの売上シェア

8.8% (18年3月MAT) ⇒ 8.3% (19年3月MAT) 注2

◆ ベオーバの売上シェア

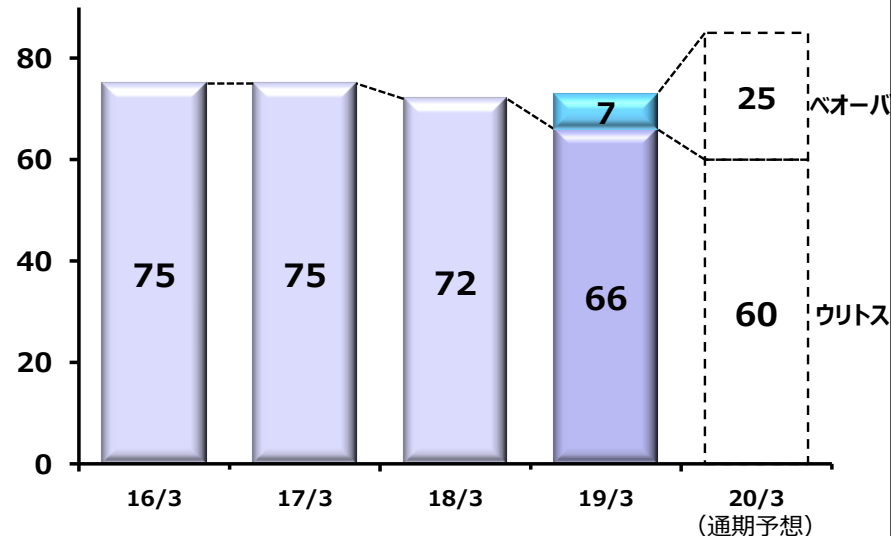
0.6% (19年3月MAT) 注3

■ 20年3月期の取り組み

- ・ウリトスは一定のポジショニングを確立 (夜間頻尿を伴うOAB)
- ・ベオーバにより、新たな治療選択肢を提供

注1 Copyright © 2019 IQVIA. JPM 2015年3月MAT、2019年3月MATを基に作成 無断転載禁止
 注2、3 Copyright © 2019 IQVIA. JPM 2018年3月MAT、2019年3月MATを基に作成 無断転載禁止

売上高 (単位：億円) **ウリトス・ベオーバ (過活動膀胱治療剤)**



■ ベオーバ 取り組みの方向性

【過活動膀胱治療剤の第一選択薬に育成】

- ◆ OAB症状、性別、年齢、患者背景を問わず処方が可能
- ◆ 「効果の早さ、高さ、安全性」を訴求
- ◆ 投与期間制限解除(12月)に向け、納入軒数と処方例数を拡大

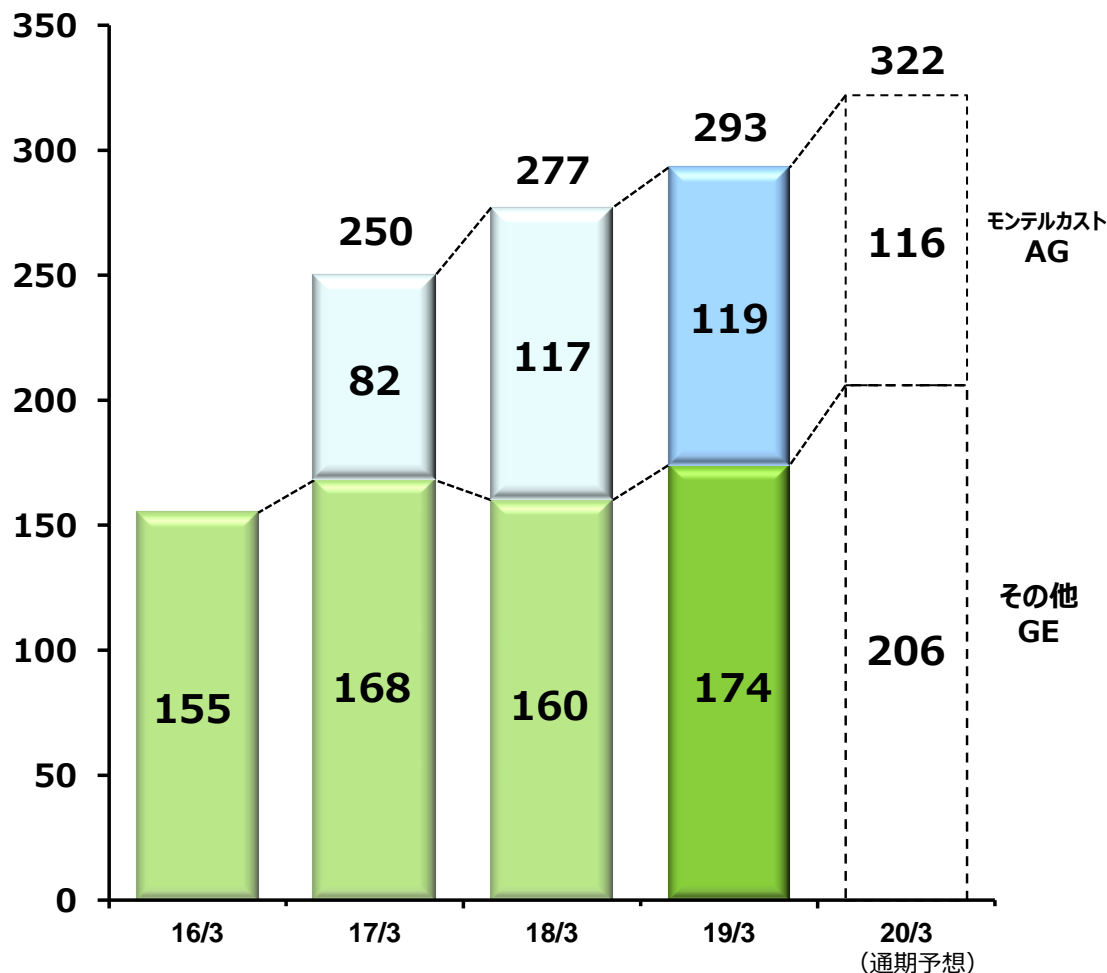
(参考情報)

海外の開発状況：Urovant PhⅢ終了 (2019.3)

両剤で過活動膀胱市場での売上・シェア拡大を目指す

■ 後発医薬品事業

売上高 (単位：億円)



■ 19年3月期の状況

◆モンテルカストAGの伸長 +2億円

・GE市場内で50%以上を維持

◆オーソライズド・ジェネリック (AG) 以外の売上が拡大

・19年3月期発売の追補品が売上拡大に貢献
 4成分8品目(イルアミクス配合錠等)を発売

■ 20年3月期の取り組み

◆オーソライズド・ジェネリック (AG) の取り組み

・モンテルカストAGのGE市場内での50%以上 (高シェア) を目指す
 ・次なるAGの展開を推進する (ナゾネックス)

◆重点品、新規追補品の売上拡大

・19年6月追補予定品：シロドシン錠/OD錠、メコバラミン錠

2020年3月期 連結業績予想

2020年3月期 連結業績予想

(単位：億円)

	19年3月期	20年3月期 (予想)	対前年	
			増減額	増減率 (%)
売上高	1,136	1,141	+5	+0.4
	1,079	1,080	+1	+0.1
医療用医薬品事業	新医薬品	785	-27	-3.4
	国内	777	-33	-4.2
	海外	8	+5	+56.6
	後発医薬品	293	322	+29
ヘルスケア事業	58	61	+3	+5.9
営業利益	90	91	+1	+1.4
経常利益	94	96	+2	+1.7
親会社株主に帰属する当期純利益	69	71	+2	+3.4

増減（対前年）のポイント

- ①売上高：〔減少要因〕薬価改定の影響、ナゾネックスのGEが発売
〔増加要因〕フルティフォーム、ベオーバの伸長、新薬「KRP-AM1977X」の上市、ナゾネックスAGの発売
- ②売上総利益の増加：原価率は前期比約1ポイント低下
- ③販管費の増加：R&D費は横ばい（前期比1億円増の109億円を見込む）、販管費率（R&D費除く）は前期比約1ポイント上昇

2020年3月期 主力製品の売上予想

(単位：億円)

	19年3月期	20年3月期 (予想)	対前年	
			増減額	増減率 (%)
フルティフォーム (喘息治療配合剤)	131	140	+9	+7.6
デザレックス (アレルギー性疾患治療剤)	37	80	+43	+115.1
キプレス (成人製剤) (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	62	45	-17	-26.5
キプレス (小児製剤) (気管支喘息治療剤)	76	61	-15	-19.2
ナゾネックス点鼻液 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	128	62	-66	-51.1
ウリトス (過活動膀胱治療剤)	66	60	-6	-8.0
ベオーバ (過活動膀胱治療剤)	7	25	+18	+242.6
ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	135	120	-15	-11.4
ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	68	60	-8	-10.2
モンテルカスト錠「KM」 (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	119	116	-3	-2.1

※19年10月の消費増税による薬価改定を想定

研究開発パイプラインの状況

研究開発パイプラインの状況

18年度の取り組み（結果：2019年3月31日現在）

	製品名・開発コード	Ph I	Ph II	Ph III	申請	承認	上市
呼吸器	Ad-SGE-REIC 遺伝子治療剤（悪性胸膜中皮腫）	Ph I / Ph II 終了					
	KRP-108P 喘息治療配合剤		18年6月Ph II 開始		17年6月	申請準備中	
感染症	KRP-AM1977X キノロン系合成抗菌剤				17年4月		
	KRP-AM1977Y キノロン系合成抗菌剤					申請準備中	
泌尿器	KRP-116D 間質性膀胱炎治療剤			17年3月			
	KRP-N118 (SK-1404) 夜間頻尿治療剤		18年8月Ph II 開始				

【導出品の状況について】


開発コード	導出先	開発段階	特徴
FPR2作動薬プログラム	米国 BMS社	Ph I	FPR2作動薬：主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す 対象疾患：非開示
KRP-203	導出活動実施中	Ph I	S1P受容体アゴニスト 対象疾患：移植片対宿主病（GvHD）
	ノバルティスが開発戦略上の視点から開発中止を決定し、開発権を返還。		

研究開発パイプラインの状況



19年度の取り組み

	製品名・開発コード	Ph I	Ph II	Ph III	申請	承認	上市
呼吸器	Ad-SGE-REIC 遺伝子治療剤（悪性胸膜中皮腫）	Ph I / Ph II 終了					
	KRP-108P 喘息治療配合剤		18年6月Ph II 開始		17年6月	申請準備中	19年度の申請を見込む
感染症	KRP-AM1977X キノロン系合成抗菌剤				17年4月		19年度の上市を目指す
	KRP-AM1977Y キノロン系合成抗菌剤					申請準備中	19年度の申請を見込む
泌尿器	KRP-116D 間質性膀胱炎治療剤				17年3月	申請準備中	19年度の申請を見込む
	KRP-N118 (SK-1404) 夜間頻尿治療剤		18年8月Ph II 開始				

※慢性咳嗽治療剤「MK-7264」 MSD社がPh III実施中 販売協業に関する覚書締結（19年5月） 

【導出品の状況について】

開発コード	導出先	開発段階	特徴
FPR2作動薬プログラム	米国 BMS社	Ph I	FPR2作動薬：主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す 対象疾患：非開示
KRP-203	導出活動実施中	Ph I	S1P受容体アゴニスト 対象疾患：移植片対宿主病（GvHD）
	ノバルティスが開発戦略上の視点から開発中止を決定し、開発権を返還。		

喘息治療配合剤「KRP-108P」

(フルティフォーム小児適応追加)

開発状況

●第Ⅲ相臨床試験（終了） ◆申請準備中

試験：小児気管支喘息患者を対象とした非盲検、実薬対照、クロスオーバー比較試験

疾患名：小児気管支喘息（5歳以上16歳未満の気管支喘息患者）

目標症例数：70例

用法・用量、使用方法：1回2吸入(50/5 μ g)、1日2回吸入投与

【主要評価項目】 mPEF値：治療期の来院前7日間の平均値のベースライン
(治療期1来院前7日間の平均値)からの変化量

試験結果

第Ⅲ相臨床試験で、対照薬（フルチカゾン/サルメテロール配合剤）に対する非劣性が検証された。

同時に行なった小児気管支喘息患者を対象とした長期投与試験（非盲検、非対照）において安全性に問題がないことが確認された。

間質性膀胱炎治療剤「KRP-116D」

(成分名：ジメチルスルホキシド)

開発状況

●**第Ⅲ相臨床試験（終了）** ◆**申請準備中** * 未承認薬・適応外薬への対応として開発中

試験：多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較試験

疾患名：間質性膀胱炎患者

目標症例数：90例

用法・用量、使用方法：1回50mLを2週間間隔で膀胱内注入する

【主要評価項目】有効性：間質性膀胱炎症状スコア（ICSI）

備考：希少疾病用医薬品指定

試験結果

第Ⅲ相臨床試験で、プラセボに対する優越性及び安全性が確認された。
(プラセボに対する優越性を世界で初めて証明することができた)

長期ビジョン「HOPE100」実現に向けた取り組み

- ・中期経営計画「HOPE100－ステージ2－」（2016～2019年度）の進捗

【Statement】

長期ビジョン実現に向けて、変革（変化と革新）を行い、持続成長を図る

事業戦略 (Strategy)

【4つの重点戦略】

- ①創薬力の強化
- ②新薬群比率の向上
- ③特色を活かした後発品事業推進
- ④ローコスト強化

【育成戦略】

- ・ヘルスケア事業および海外進出

組織化戦略 (Organization)

- ・働きがいNo.1企業
- ・人材マネジメントシステムの構築・運用

成果目標 (Performance)

- ・持続成長の実現
- ・年平均成長率3%以上、営業利益率15%以上
- ・株主還元：安定的な配当を目指します

ファースト・イン・クラス創薬への取り組み

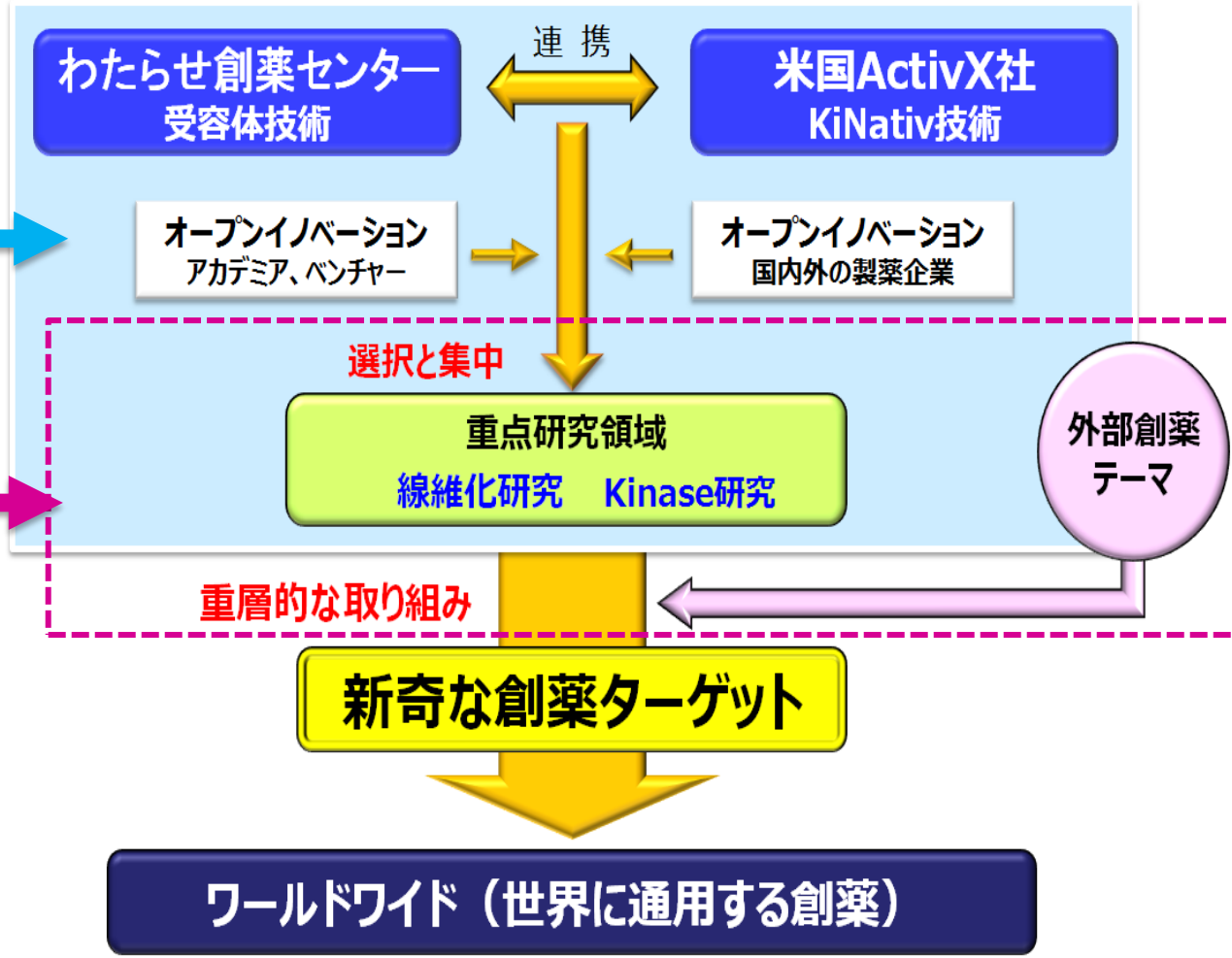
継続的に革新的な新薬を生み出す体制の構築

共同研究

- ・京都大学
呼吸器疾患創薬講座
- ・微生物化学研究所
抗菌薬分野の探索
- ・ヘブライ大学
呼吸器疾患治療薬の創薬

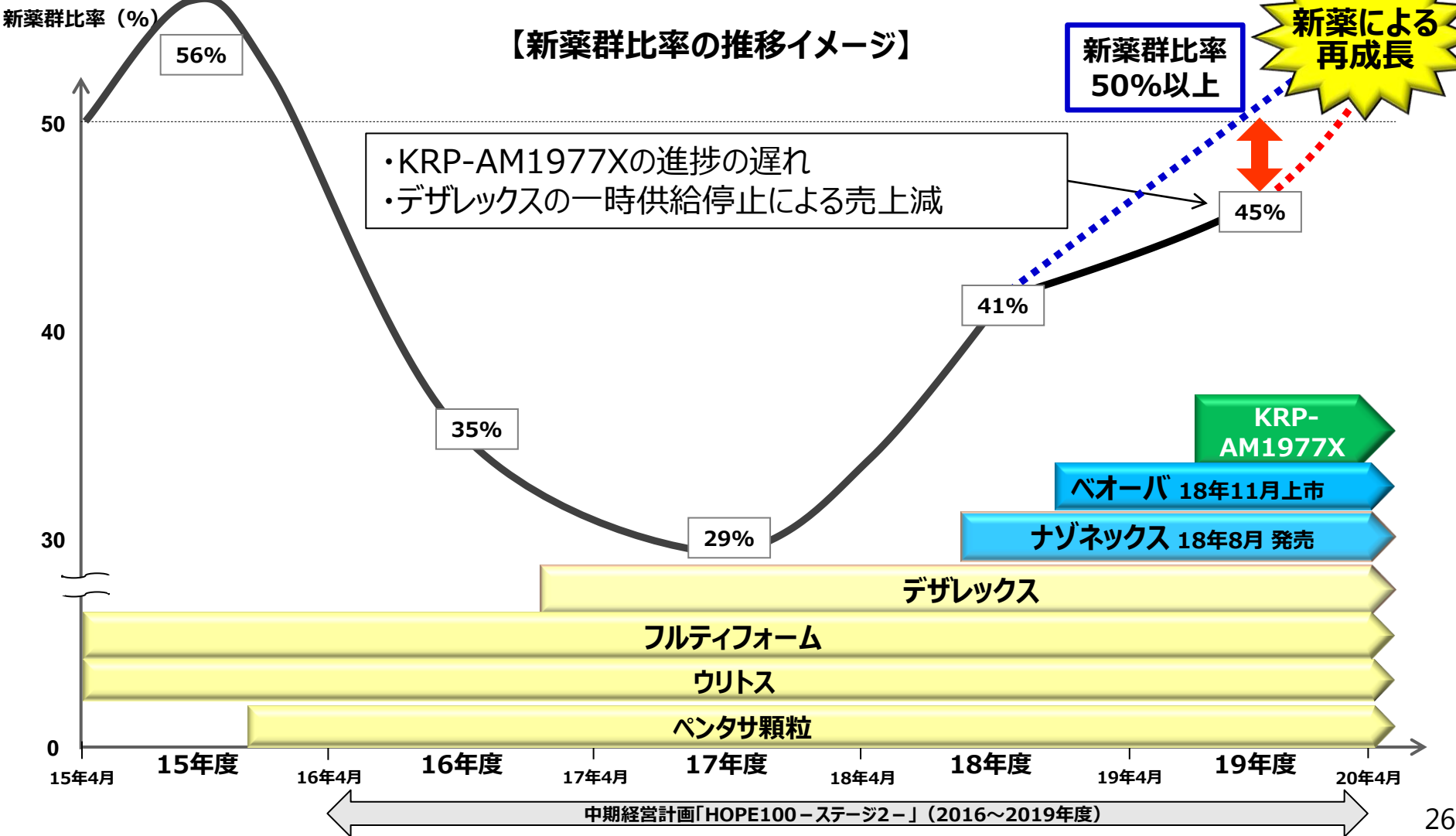
創薬企画機能の強化
組織を再編

新たなモダリティとして、
核酸医薬へ取り組む



新薬群と新製品による再成長の加速

- ・フルティフォーム、デザレックス、ベオーバの普及の最大化を図る
- ・KRP-AM1977Xの確実な上市と早期の市場浸透を図る



新薬による市場の創造

中期経営計画「HOPE100—ステージ2—（2016～2019年度）」
 ステージ2の期間内に、4つの新製品を上市させ、フルティフォームと併せて製品普及の最大化を図る

2016年度～	進捗状況	現状	～2019年度	～2023年度	将来像
フルティフォーム	15年度 シェア7% 18年度 シェア12% <small>注1</small>	ICS/LABA市場：1,200億円 <small>注2</small>	・小児製剤の上市を目指す (2019年度申請予定) ・競合品の後発医薬品発売の可能性あり		ICS/LABA 配合剤 数量シェア 30%
ベオーバ	新発売 2018年11月	OAB市場：900億円 <small>注2</small>	・投薬期間の制限解除 (2019年12月)		処方患者シェア 30%以上
デザレックス	新発売 2016年11月	抗ヒスタミン市場：1,600億円 <small>注2</small>	・供給再開後、耳鼻科領域における 処方獲得率No.1を目指す		抗ヒスタミン剤 市場シェアNo.1
KRP-AM1977X KRP-AM1977Y	申請中 申請準備中	経口抗菌剤市場：1,100億円 <small>注2</small> 注射剤市場： 1,100億円	・KRP-AM1977X の上市を目指す (2019年度) ・KRP-AM1977Yの上市を目指す (2019年度申請予定)		呼吸器・耳鼻科疾患 処方患者シェアNo.1

OAB市場：抗コリン薬 + β3アドレナリン受容体作動薬
 抗菌剤市場：全身性抗菌剤すべてを含む、全市場小児含む

AGの積極的な取り組みと事業推進力の強化

➤ AG戦略

モンテルカストAG



GE内数量シェア50%以上を維持

モメタゾンAG



19年度内の上市を目指す

次なるAGの展開を推進する

■ キョーリン リメディオの事業推進力の強化

➤ 自社開発品の強化

高岡創剤研究所の設立
(2017年7月開所)



年間8成分を上市できる体制の構築を目指す

AG：オーソライズド・ジェネリックの略

グループ生産機能の集約

グループ内最適化によるコスト構造の変革

2018年4月本格稼働

能代工場（秋田県）



井波工場（富山県）



滋賀工場（滋賀県）



- ◆ 各工場の製造バランスを平準化し外注費を抑制
- ◆ 工場間の人員の流動化を図り効率的稼働を促進
- ◆ 設備の有効活用を実現し新たな設備投資は抑制

初年度（2018年度）において約3億円の削減

再編効果の目途：2023年までに約10億円のコスト削減

診断事業の展開

次の核となる事業の基盤をつくり、感染症の治療・診断・予防の事業モデル確立を目指す



製品特長

- ・超高速定量的 PCR※1 技術に基づく迅速な遺伝子検出（5-15分程度）
- ・感染直後から微量の試料で、高感度検出が可能
- ・POCT ※2 を見据え小型化された卓上PCR装置

POCT による感染症起炎菌の特定と適切な抗菌薬の選択による治療の向上



本体 1台に対して検出ユニット 4台まで接続可能

※1 PCR (Polymerase Chain Reaction): 特定の DNA 配列を選択的に増幅する手法

※2 POCT (Point of Care Testing): ベッド(患者)サイドで医療従事者が行う検査

【今後の取り組み】

- 超高速遺伝子定量装置「GeneSoC®」、測定チップ、研究用試薬：2019年度下期発売
- 体外診断薬：2021年の発売を目指す

持続成長の実現

健康はキョーリンの願いです。

中期経営計画「HOPE100—ステージ2—（2016～2019年度）」

<最終年度の目標値>

年平均成長率
3%以上

連結営業利益率
15%以上

計画策定時の想定を下回った要因

- **新薬事業（国内）における課題**
 - ・デザレックスの一時供給停止
 - ・KRP-AM1977Xの進捗の遅れ
- **創薬ビジネス（海外展開）における課題**
 - ・ロイヤリティ収入の未達
(導出先によるKRP-203の開発中止)

【制度・環境面の変化】

- **薬価制度抜本改革**
 - ・新薬創出加算の見直し
 - ・薬価頻回改定等

<2019年度（予想）>

年平均成長率
-1.1%

連結営業利益率
8%

持続成長に向けた取り組み（医薬事業モデルの進化）

<創薬>

- **革新的な新薬の創出**
 - ・継続的な新薬創出体制を構築

<新薬事業>

- **新薬群比率の向上**
 - ・4つの新薬（開発品含む）を推進力に

<GE事業>

- **特色を活かしたGE戦略**
 - ・AG戦略の推進

<新規事業>

- **診断事業の育成と基盤づくり**

株主還元について

基本方針（2018年7月31日公表）

- 健全な財務基盤を維持しつつ、成長投資と株主還元を通じて、資本効率の向上を図ります
- 株主還元は、DOE（株主資本配当率）を勘案して、安定した配当を継続します

19年3月期の1株当たり配当金（予想）：75円（うち中間30円）

配当の推移と配当の予想

	17年3月期	18年3月期	19年3月期 ※	20年3月期 （予想）
1株当たり 配当金	58円 （うち期末38円）	58円 （うち期末38円）	75円 （うち期末45円）	75円 （うち期末45円）
連結配当性向	59.3%	65.9%	72.6%	61.4%

※19年3月期の期末配当45円につきましては、5月22日に開催される取締役会で決定される予定です

成長力を育成し
成長軌道を獲得する



2019年5月13日

各位

会社名	キョーリン製薬ホールディングス株式会社
代表者名	代表取締役社長 穂川 稔 (コード番号 4569 東証第1部)
問い合わせ先	経営戦略室 経営企画部 部長 谷藤 功典
電 話	03-3525-4707

慢性咳嗽治療剤の販売協業に関する覚書の締結

キョーリン製薬ホールディングス株式会社(本社:東京都千代田区、社長:穂川稔)の子会社である杏林製薬株式会社(以下杏林製薬)は、MSD株式会社(本社:東京都千代田区、社長:ヤニー・ウェストハイゼン、以下MSD)が開発中の難治性慢性咳嗽治療剤「MK-7264」について、同社と日本国内における販売の協業に関する交渉権について覚書を締結しました。

本覚書のもと、杏林製薬は、MSDが同化合物の承認申請を決定した後、販売協業に関する契約について優先的に交渉いたします。

「MK-7264」はMerck & Co., Inc., Kenilworth, N.J., U.S.A.により創製された新規化合物で、難治性慢性咳嗽の咳症状の改善が期待される薬剤です。現在、日本国内においては、MSDがPh3臨床試験を実施中です。

杏林製薬は、今後とも重点領域(呼吸器・耳鼻科領域)における製品ラインナップの拡充を図り、同領域でのさらなるプレゼンス向上を目指します。

本件の2020年3月期の連結業績予想に与える影響はございません。

以上

